

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3 年計画の 2 年目)

1. 研究課題

3世紀東アジアの研究

A Study of East Asia in the Third Century

2. 研究代表者氏名

森下章司

MORISHITA, Shōji

3. 研究期間

2018 年 04 月 - 2021 年 03 月 (2 年度目)

4. 研究目的

3世紀の東アジアは、中国における漢王朝の滅亡、三国への分裂をきっかけとして韓・倭の地域勢力が勃興、地域社会が独立性を強めた変動の時代であった。そうした状況を物語る資料として『三国志』をはじめとする文献があるほか、とくに近年は各地の考古資料も増大し、多くの研究成果が蓄積された。こうした3世紀における地域社会の特色や相互関係に関して、考古学・文献史・思想史の各分野と各地域の専門研究者による共同研究と議論を通じ、多角的な視点から検討をおこなう。①『三国志』烏丸鮮卑東夷伝のテキスト読解、②考古学による各地の生活形態・社会制度復元との対比、③各地域の独自性と共通性の比較、④地域間交流の検討などを軸として、東アジア世界において3世紀という時代が果たした意義について総合的な研究を推進する。

The purpose of this seminar is to clarify the regional features and the relationships among the societies of China, Korea and Japan in the 3rd century. In this age, after the collapse of the Han dynasty and the formation of Three Kingdoms, the tribal societies of Korea and Japan had developed to the Chieftom stage. San-Guo-Zhi (三国志) describes these local societies and their changes in detail; also, the number of archaeological records of this area has been increasing recently. Through textual, historical and archaeological studies, we will point out the significant role played by local societies in 3rd century Asian history.

5. 本年度の研究実施状況

2年目にあたる本年度は、昨年度にひきつづき基礎文献である『魏志』東夷伝の回読を進めるとともに、東アジア各地のさまざまな考古学的現象について検討した。おもに年度の前半に実施した『魏志』東夷伝の回読においては、韓・倭人条について関連する文献史料・考古資料と対比しながら読み進め、またその裴松之注に引用される『魏略』西戎伝についても検討をおこなった。これと併行して、中国・朝鮮半島・日本列島の飲食器や儀礼、水田や穀物栽培、都城制度、車輿制度、交易と交流などの問題について各班員が研究の成果を報告し、議論を深めた。

6. 研究成果の概要

なし

7. 本年度の研究実施内容

- 2019-04-12 漢魏における胡漢の交易と交流 発表者 向井佑介
- 2019-04-26 『魏志』東夷伝・韓条 発表者 田中一輝 立命館大学・非常勤
- 2019-05-10 『魏志』東夷伝・倭人条 発表者 田中一輝 立命館大学・非常勤
- 2019-06-14 古代中国飲食儀礼と俎豆 発表者 森下章司 大手前大学
- 2019-06-28 『魏志』東夷伝(『魏略』西戎伝) 発表者 田中一輝 立命館大学・非常勤
- 2019-07-12 倭人列島から倭国形成へ ―紀元前・紀元後の社会変化と統合に向けての考古現象複数軸の整合性をめぐって〔前篇〕― 発表者 森岡秀人 関西大学・非常勤
- 2019-10-11 古代の馬車から中世の牛車へ 発表者 岡村秀典
- 2019-10-25 古代中国の農業資料 発表者 森下章司 大手前大学
水田模型と穀物調整農具について 発表者 馬淵一輝 文学研究科
- 2019-11-08 3世紀を前後する時期の日韓の穀物食 発表者 庄田慎矢 奈良文化財研究所
- 2019-11-22 太一・北辰・太極 ―中国都城と宇宙論― 発表者 田中一輝 立命館大学・非常勤
- 2019-12-13 中・韓・日の礼器 発表者 長友朋子 立命館大学
- 2020-01-10 俎豆から杯盤へ 発表者 森下章司 大手前大学
- 2020-01-24 伝世と倣古―周代青銅彝器の時間性をめぐる試論― 発表者 山本堯 泉屋博古館
- 2020-02-14 倭人列島から倭国形成へ ―紀元前・紀元後の社会変化と統合に向けての考古現象複数軸の整合性をめぐって〔後篇〕― 発表者 森岡秀人 関西大学・非常勤

8. 共同研究会に関連した公表実績

なし

9. 研究班員

所内

岡村秀典、稲本泰生、宮宅潔、古勝隆一、古松崇志、向井佑介、藤井律之、高井たかね、目黒杏子、大谷育恵

学内

吉井秀夫(文学研究科)、下垣仁志(文学研究科)

学外

長友朋子(立命館大学)、井上直樹(京都府立大学)、諫早直人(京都府立大学)、金宇大(滋賀県立大学)、山本堯(泉屋博古館)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	10 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (1)	79 (35)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
学内	2	4 (0)	0 (0)	3 (1)	2 (0)	30 (0)	0 (0)	22 (1)	22 (1)
国立大学	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学	1	3 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	13 (1)	0 (0)	1 (1)	1 (1)
私立大学	3	4 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	51 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	8 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (0)
外国機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	10	24	1	5	5	183	1	24	32

		(6)	(1)	(3)	(2)	(48)	(1)	(3)	(3)
--	--	-----	-----	-----	-----	------	-----	-----	-----

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	2(2)
国際学術誌に掲載された論文数	0(0)

※()内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

13. 次年度の研究実施計画

3年目の 2020 年度は最終年度であるため、これまでの研究成果をまとめつつ、報告論文集作成に向けた研究報告を実施していく。これまでに検討してきた異民族・農業・都城・飲食・車馬・儀礼など各分野の研究をさらに発展させつつ、天下観・墓制・信仰・騎馬文化・交易などの諸分野に関連する資料を集成し、その検討結果を報告し、研究会において自由に議論する。考古学・文献史・思想史の各分野と、中国・朝鮮・日本など各地域の専門研究者による議論を通じて、古代東アジアの社会・生活・交流について、多角的に検討を進めていく。必ずしも「3世紀」という時代にとらわれることなく、中国を中心とした古代東アジア世界の仕組みと変容の実態を明らかにすることを目標としたい。

14. 研究成果公表計画および今後の展開等

なし